

動物公園日誌

日直 アッサム
(チンチラ)



ぼくはチンチラのアッサム。去年の10月に生まれたよ。チンチラはリスやネズミの仲間なんだ。似ているでしょ。いっしょにいるのは、同じ10月に生まれたふたご兄弟のルフナとラミン。見分け方は、ラミンのほうがルフナよりもうすいグレーってところかな。ぼくたちは、生まれたときの重さが50グラムくらいで、みんなのまわりにあるもの

のだと単3電池2本ぶんだよ。

ぼくとふたごの名前は、紅茶の葉からとっているんだ。なぜかっていうと、ぼくのお母さんがタルト、ルフナとラミンのお母さんがパンナってあって、洋菓子と紅茶って相性がつぐんだもんね。



ルフナ アッサム ラミン

ぼくたちはとってもなかよしだけど、砂浴びのときは早いもの勝ち！砂浴びをすると、体の汚れが落ちてリラックスできるんだ。早くきれいになって、ゆっくりしたいもん。みんながお風呂に入るのと同じだね。



食べ物は、サツマイモとコマツナが好きで、飼育員さんがほかにも野菜をくれるんだけど、好きなものから食べちゃう！夜行性だから、お昼は寝ていることが多いけど、11時からのごはんの時間は元気に動き回っているよ。やっぱりごはんの時間は特別だよね！

動物公園 ☎252-1111 FAX255-7116

千葉市のつくたべ!

市内ではさまざまな農産物がつくられています。産地ならではの、新鮮で旬な農産物をおいしくたべませんか。

土気からし菜 旬…2月中旬～3月中旬



土気からし菜は、緑区土気地区に伝わる伝統野菜です。特徴はその辛さにあり、生葉はあくが強いので、塩もみをして漬物として食べることが一般的です。晩秋に種をまき、早春に収穫します。それぞれの農家が、代々自家採種により種を守り、栽培を続けてきました。市では、この貴重な土気からし菜を後世に残すために地域の農家と協力し、生産から出荷まで支援しています。

Recipe 土気からし菜の漬物焼うどん



- 【材 料】2人分
 土気からし菜の漬物…150g
 玉うどん …2玉
 しめじ …1袋
 ベーコン …50g
 だし汁 …100cc
 油 …小さじ2



- ①ベーコンと水洗いしたからし菜の漬物は1.5cm程度に刻み、しめじはいしづきを取り、ほぐしておく。
- ②フライパンに油を熱し、ベーコン、しめじをさっと炒め、からし菜の漬物とうどんを加える。
- ③だし汁を足し、水分がなくなるまで炒める（お好みでかつお節や鷹の爪スライスをちらす）。

農政課 ☎245-5758 FAX245-5884



東京2020オリンピック・パラリンピック関連情報

さあ、MAKUHARI から未来へ

幕張メッセで7競技開催

千葉市内開催競技のアスリートを紹介
パラアスリートの未知(道)

憧れの先輩からの後押し

「剣先を相手の胸に向けて突くんだよ」。汗だくになりながらも、イベントで集まった子どもたちにやさしく教える藤田道宣選手。実家が寺院の関係で、京都にある平安高校に進学した彼は、そこで後に北京2006オリンピックで銀メダルを取る、1年先輩の太田雄貴さんと出会います。



「太田さんのようになりたい」。フェンシング部に入部した藤田選手はメキメキと成長し、全日本選手権に出場するなど将来を嘱望される選手になりました。しかし、大学2年の時、海水浴に行き突堤から飛び込んだ際に頭を強打、頸椎損傷で下半身まひになりました。フェンシングもできなくなり、自暴自棄になった藤田選手。そんな彼を救ったのが、憧れの人、太田さんでした。「車いすフェンシングでパラリンピックを目指せ」。その言葉を信じ、彼は車いすフェンシングに人生の活路を見出します。

もがき続けた先にたどり着いた境地

しかし、競技の変更は、それまで培ったスタイルを一から作り直すことでもありました。車いすフェンシングは、剣を持つ反対の手で、車いすを握って上半身を支えます。元来左手で剣を扱っていた

藤田道宣選手

× 車いすフェンシング

一突きにかける!! 障害を乗り越えて世界で活躍する、努力の若きフェンサー

藤田選手は、障害により右手の握力を失い、その手で上半身を支えることができません。そこで、彼は剣を右手に固定して戦うことを決断します。「自分のできることを探る。障害のせいにはしたくない」。慣れない手で剣を持ちながらも、基本動作から練習を重ねる藤田選手。競技を始めて苦節8年、2018年のジャカルタアジアパラ競技大会で、個人戦で銀メダル、団体戦で銅メダルを獲得しました。

そんな藤田選手が大事にしているのは、「相手の心を読むこと」。相手がどう出てくるのか、先の先を読むことが大事と力説します。「そのためには、1対1で勝ち切るメンタルの強化が必要」。競技に真摯に取り組むことで、己の精神も鍛えています。



藤田選手 (右)

東京2020パラリンピックに向けて

「パラリンピックは特別な大会。いい成績を残して、車いすフェンシングがもっと注目されるようにしたい」と言う藤田選手。車いすフェンシングがパラリンピック以降も脚光を浴びるよう、自身と競技の未来を背負って頑張り続けます。

動物公園調整課 ☎245-5296 FAX245-5299